

P2-5 当院における希少がん、希少がん以外のがんの受療動向

大塚 理可¹ 杉野 理紗子¹ 上原 亜希¹ 瀬浪 尚子¹ 山本 晃² 田端 雅弘³ 郷原 英夫⁴

岡山大学病院 1 病歴管理係 診療情報管理室 2 院内がん登録室 3 腫瘍センター 4 医療情報部

背景・目的

コロナ禍、病院の診療方針により診療に大幅な制限がかかり、2020年の当院の院内がん登録数は大きく減少した。特に診療可能な医療機関が限られる希少がん診療への影響、県外からの診療への影響を調査することとした。

当院の院内がん登録件数の動向（2018～2022）

	2018	2019	2020	2021	2022
全登録件数	3,418	3,482	3,198	3,277	3,451
希少がん	545	577	457	523	546
希少がん以外	2,873	2,905	2,741	2,754	2,905

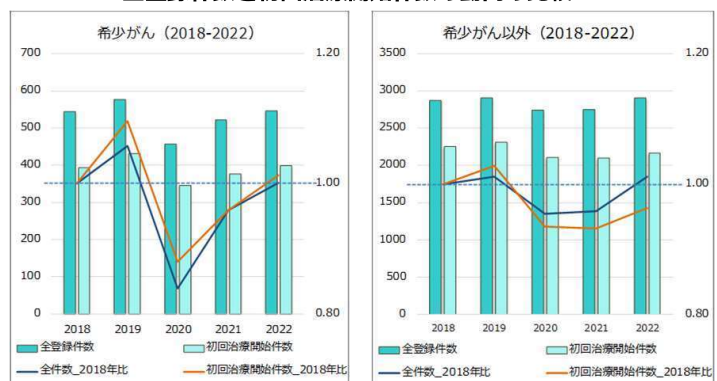
方法

当院の2018年から2022年の希少がんと希少がん以外のがんの全登録件数、初回治療開始件数、初回治療継続件数を集計し2018年を基準として県内、県外からの受療動向の推移を比較検討した。

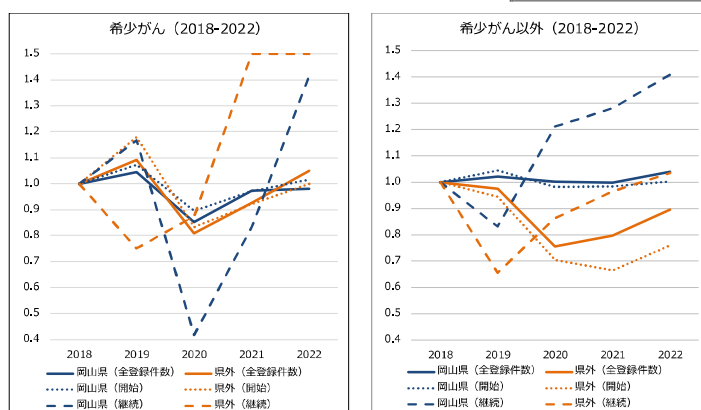
結果

2018年と比較すると、希少がんでは2020年、全登録件数は約16.1%減少、初回治療開始件数は約12%減少したが、2021年にはどちらも約4%の減少まで増加し、2022年には同等まで回復した。一方、希少がん以外の全登録件数は2020年には約4.6%減少しており、初回治療開始件数では約6.5%の減少、2022年でも約3.6%の減少だった（右図）。

全登録件数と初回治療開始件数の動向の比較



県内外・治療状況の動向 2018年との比較



県内外の全登録件数を比較すると、希少がん、希少がん以外にも県外では減少したが、希少がん以外の県内は大きな変化は見られなかった。また、希少がんの県外では早い時期での回復が見られた。

初回治療継続件数は希少がんは2021年以降、希少がん以外では2020年以降、県内外ともに増加傾向であった（左図）。

考察

当院のがん診療はコロナ禍における病院の診療方針により希少がん、希少がん以外にも影響を受けた。希少がん以外では県外からの受療件数は2022年でも十分に回復していなかった。希少がんについては診療を行う医療機関が限られているため、早期に受療件数が回復したと考えられる。また、全件に対する割合としては多くはないが、初回治療継続件数は増加しており、近医との連携の増加が考えられた。コロナ以降希少がん、希少がん以外共に県内での初回治療継続件数が増えており、診療が制限される中で他施設との連携体制がコロナ前より強化されたのではないかと考えられた。

今後、医療連携体制を構築することにより、有事でも途切れない、安定した診療の提供が可能になっていくのではないかと考える。